

平成23年度 胎内市小・中学校共通評価シート A

1 幼児教育		
園の姿	評価基準	自己評価
心身ともに健康で、意欲的に活動する子ども	A: 具体的な方策の3評価項目全てについてA評価である。	B
	B: 具体的方策の1～2評価項目についてA評価である。または、全てB評価である。	
	C: 具体的方策の3評価項目についてC評価が1つ以上ある。	
幼稚園・保育園の改善策	* 「自己評価」は、胎内市内の幼稚園・保育園の自己評価の集計結果です。	

努力事項	具体的な方策	評価基準	自己評価
身近な環境に親しみ、友だちと遊ぶ環境構成と援助の工夫	よりよい指導方法や指導体制の改善を図るための研修、情報交換等を年2回以上実施する。	A: 年2回以上実施した。 B: 年1回実施した。 C: できなかった。	A
健康な体づくりと生活習慣の確立を目指した、家庭との連携	健康三原則(調和のとれた食事、適切な運動、休養及び睡眠)に基づく生活習慣の定着を図り、食育を推進するために、保護者と連携した取組を年2回以上実施する。	A: 年2回以上実施した。 B: 年1回実施した。 C: できなかった。	B
発達や学びの連続性を考慮した小学校との情報交換、計画的な交流活動の実施	小学校への円滑な接続のあり方について幼・保・小で研修、情報交換する場を計画的に設定し実施した。	A: 計画的に実施し具体的な改善を図ることができた。 B: 計画的に実施したが具体的な改善を図るまでには至らなかった。 C: 計画的に実施できなかった。	B

2 学校運営		
学校の姿	評価基準	自己評価
地域とともに歩む、特色ある学校づくり	A: 具体的な方策の3評価項目全てについてA評価である。	A
	B: 具体的な方策の1～2評価項目についてA評価である。または、全てB評価である。	
	C: 具体的な方策の3評価項目についてC評価が1つ以上ある。	
学校の改善策	* 「自己評価」は、胎内市立小・中学校全11校の自己評価の集計結果です。「学校の改善策」については、各学校のHPを参考にしてください。	

努力事項	具体的な方策	評価基準	自己評価
教育目標具現に向けた、保護者や地域との行動連携による学校づくりの推進	保護者や地域との行動連携による事業を、年2回以上実施する。	A: 行動連携した事業を年2回以上実施した。 B: 行動連携した事業を年1回実施した。 C: 行動連携した事業を実施できなかった。	A
地域の自然・文化・施設などを活用した特色ある教育活動の推進	地域の自然・文化・施設などを活用した特色ある教育活動を、全学年で実施する。	A: 特色ある教育活動を、全学年で実施した。 B: 特色ある教育活動を、80%以上の学年で実施した。 C: 特色ある教育活動の実施は全学年の79%以下であった。	A
学校評価(自己評価・学校関係者評価)を生かした教育活動の充実や改善	自己評価・学校関係者評価の点検・評価を生かした活動を実施する。	A: 自己評価・学校関係者評価両方を生かした活動を実施した。 B: 自己評価・学校関係者評価どちらかを生かした活動を実施した。 C: 評価を生かした活動を実践できなかった。	A

3 教育課程		
学校の姿	評価基準	自己評価
新学習指導要領の趣旨を生かした「生きる力」を育成する教育課程の運用	A: 具体的な方策の3評価項目全てについてA評価である。	A
	B: 具体的な方策の1～2評価項目についてA評価である。または、全てB評価である。	
	C: 具体的な方策の3評価項目についてC評価が1つ以上ある。	
学校の改善策	* 「自己評価」は、胎内市立小・中学校全11校の自己評価の集計結果です。「学校の改善策」については、各学校のHPを参考にしてください。	

努力事項	具体的な方策	評価基準	自己評価
基礎的・基本的な知識及び技能の習得と活用を図る学習活動を重視した教育課程の編成・実施	基礎的・基本的な知識及び技能の習得と活用を図る学習活動を重視した教育課程を編成し、授業実践を通して検証する。	A: 校内研修で授業を通して検証した。 B: 日頃の授業実践を通して検証した。 C: 具体的な検証はできなかった。	A
「総合的な学習の時間」における、育てようとする資質や能力及び態度にかかわる評価の充実	「総合的な学習の時間」の全ての単元で、育てたい資質や能力及び態度の評価基準を設定する。	A: 全ての単元で評価基準を設定した。 B: 80%以上の単元で設定した。 C: 80%未満の単元で設定した。	A
地域の“ひと・もの・こと”を活かした「ふるさと体験学習」や「職場体験学習」の充実	地域の人材、施設、自然、歴史、産業等を効果的に取り入れた「ふるさと体験学習」や「職場体験学習」を実施する。	A: 80%以上の子どもに有効な活動となった。 B: 60%以上80%未満の子どもに有効な活動となった。 C: 60%未満の子どもに有効な活動となった。	A

4 学習指導			
子どもの姿	評価基準		自己評価
意欲的に学び、考え、表現する子ども	A:意欲的に学習している子どもが80%以上である。		A
	B:60%以上～80%未満である。		
	C:60%未満である。		
学校の改善策	* 「自己評価」は、胎内市立小・中学校全11校の自己評価の集計結果です。「学校の改善策」については、各学校のHPを参考にしてください。		

努力事項	具体的な方策	評価基準	自己評価
習熟度別指導、ティームティーチングなどによる個に応じた指導の充実	個に応じた指導を行うための指導体制の工夫や改善を図り、実施学年で年3単元以上実施する。	A:年3単元以上実施した。 B:年2単元実施した。 C:年1単元実施した。	A
問題意識に添った体験的・問題解決的な学習と言語活動の充実	「総合的な学習の時間」において、子どもの問題意識に沿った指導を推進する中で、言語活動を中心とした表現活動を年3単元以上設定する。	A:年3単元以上実施した。 B:年2単元実施した。 C:実施できなかった。	A
学びあい、支え合う学級づくりの基盤となる学習規律の確立	子どもの実態に応じた「学習規律」を明確に設定し、全学級で取組を実施する。	A:全ての学級で取組をした。 B:80%以上の学級で取組をした。 C:80%未満の学級で実施した。	A
学習意欲の向上と家庭と連携した家庭学習の定着	学習意欲の向上を図るための手立てを年2回以上実施する。	A:年2回以上実施した。 B:年1回実施した。 C:実践できなかった。	A
	小中連携の視点から家庭と連携した家庭学習定着の取組を実施し、点検・評価して改善する。	A:点検・評価して改善した。 B:点検・評価まで行った。 C:取組まで行った。	A

5 道徳教育		
子どもの姿	評価基準	自己評価
豊かな心を持ち、自他を尊重する子ども	A: 思いやりのある言動がとれる子どもが80%以上である。	A
	B: 60%以上～80%未満である。	
	C: 60%未満である。	
学校の改善策	* 「自己評価」は、胎内市立小・中学校全11校の自己評価の集計結果です。「学校の改善策」については、各学校のHPを参考にしてください。	

努力事項	具体的な方策	評価基準	自己評価
命を大切にする心や他者への思いやりの心を育む「道徳の時間」の充実	「命を大切にする心」、「他者への思いやりの心」の育成に関する内容項目に焦点をあてた道徳授業を、全学年・全学級で年5回以上実施する。	A: 年5回以上実施した。 B: 年4回実施した。 C: 年3回実施した。	A
豊かな心を育み、道徳的実践力に結びつく各種体験活動の充実	自然体験や社会体験、ボランティア活動、あいさつ運動、環境美化活動等の道徳的実践事業を年2回以上実施する。	A: 年2回以上実施した。 B: 年1回実施した。 C: 実施できなかった。	A
家庭、地域や学校間で連携して行う「心の教育事業」の推進	家庭、地域や学校間で連携して行う「心の教育事業」を年2回以上実施する。	A: 年2回以上実施した。 B: 年1回実施した。 C: 実施できなかった。	A

6 人権教育、同和教育		
子どもの姿	評価基準	自己評価
差別や偏見を見抜き、正しいものの見方・考え方をする子ども	A: いじめは許さないと考えている子どもは90%以上である。	A
	B: 80%以上～90%未満である。	
	C: 80%未満である。	
学校の改善策	* 「自己評価」は、胎内市立小・中学校全11校の自己評価の集計結果です。「学校の改善策」については、各学校のHPを参考にしてください。	

努力事項	具体的な方策	評価基準	自己評価
「かかわる同和教育」の視点に立った子どもに寄り添う指導の推進	つらい思いをしている子どもの立場に立ち、親身になって課題を共に解決していく指導を実践する。	A: 学校体制で実践した。 B: 学年部体制で実践した。 C: 個々の職員で実践した。	A
人権尊重の精神を培う「生きる」シリーズ等を活用した計画的な授業実践	「生きる」シリーズ等を活用し、計画的に授業実践を年2回以上実施する。	A: 年2回以上実施した。 B: 年1回実施した。 C: 実施できなかった。	A
人権問題に関する感性を高め、指導力の向上を図る研修の充実	身近に発生する人権問題の本質を見抜き、人権問題を子どもに分かりやすく指導できるように、校内研修を年2回以上実施する。	A: 年2回以上実施した。 B: 年1回実施した。 C: 実施できなかった。	A

7 生徒指導		
子どもの姿	評価基準	自己評価
人とかかわる力と判断力を伸ばす子ども	A:進んであいさつできる子どもが80%以上である。	A
	B:60%以上～80%未満である。	
	C:60%未満である。	
学校の改善策	* 「自己評価」は、胎内市立小・中学校全11校の自己評価の集計結果です。「学校の改善策」については、各学校のHPを参考にしてください。	

努力事項	具体的な方策	評価基準	自己評価
教師や友達との信頼関係の醸成と社会性の育成	あいさつを進んでするようになる運動を工夫して行う。	A:子どもが主体となって実施した。 B:教師が主体となって実施した。 C:実施できなかった。	A
不登校やいじめの早期発見・対応と解決に向けての生徒指導体制の充実	いじめ対応マニュアルの自校化を一層促進し、いじめ予防教育といじめ認知後の迅速・的確な対応を行う。	A:いじめ対応の自校化を図り、予防と迅速・的確な対応を行った。 B:いじめ対応の自校化を図ったが、予防と迅速・的確な対応はできなかった。 C:いじめ対応マニュアルの自校化ができなかった。	A
いじめ根絶プロジェクトによる子ども主体のいじめ根絶活動の推進	児童会、生徒会が主体となったいじめ根絶に向けた取組を年3回以上実施する。	A:年3回以上実施した。 B:年2回実施した。 C:年1回実施した。	A
中1ギャップ解消の取組等、幼・保・小・中・高及び関係機関との行動連携の強化	幼・保・小・中・高校及び関係機関との行動連携を促す場を年2回以上設定し、実施する。	A:年2回以上改善の場を設定した。 B:年1回設定した。 C:設定できなかった。	A

8 体育・健康・安全教育		
子どもの姿	評価基準	自己評価
進んで健康・安全な生活を送る子ども	A:健康で安全な生活を送っている子どもは80%以上である。	A
	B:50%以上～80%未満である。	
	C:50%未満である。	
学校の改善策	* 「自己評価」は、胎内市立小・中学校全11校の自己評価の集計結果です。「学校の改善策」については、各学校のHPを参考にしてください。	

努力事項	具体的な方策	評価基準	自己評価
体力の向上を促す指導体制・指導方法の工夫	体力向上に取り組ませる指導方法や指導体制の改善を図るために、校内研修を年2回以上実施する。	A:校内研修を年2回以上実施した。 B:年1回実施した。 C:実施できなかった。	A
健康三原則(調和のとれた食事、適切な運動、休養及び睡眠)に基づく望ましい生活習慣の形成と食育の推進	健康三原則に基づく生活習慣の定着を図り、食育を推進するために、保護者や地域と連携した取組を年2回以上実施する。	A:連携した取組を年2回以上実施した。 B:年1回実施した。 C:実施できなかった。	A
学校、保護者、地域、関係機関との連携による子どもの安全確保	保護者、地域、関係機関等の連携による通学路の安全点検や交通安全指導を年2回以上実施する。	A:連携して安全点検や交通安全指導を年2回以上実施した。 B:年1回実施した。 C:実施できなかった。	A

9 国際理解教育		
子どもの姿	評価基準	自己評価
外国の言葉や文化や進んで学び、コミュニケーションできる子ども	A:ALT等との学習に意欲的に取り組んでいる子どもは80%以上である。	A
	B:60%以上～80%未満である。	
	C:60%未満である。	
学校の改善策	* 「自己評価」は、胎内市立小・中学校全11校の自己評価の集計結果です。「学校の改善策」については、各学校のHPを参考にしてください。	

努力事項	具体的な方策	評価基準	自己評価
自国や諸外国の言語、文化等について理解を深めるためのALT等の活用促進	自国や諸外国の言語・文化等について理解を深める指導の充実を図るために、ALT等の人材を年間2回活用する。	A:年2回活用した。 B:1回活用した。 C:活用しなかった。	A
コミュニケーション能力を高める外国語教育の指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力を高める「英語活動」を推進するために、年間計画に基づく校内研修を計画どおり実施する(小学校)。 ・コミュニケーション能力を高める「英語教育」を推進するために、実践的な指導力の向上を図る校内研修を年2回以上実施する(中学校)。 	A:年2回以上実施した(中)。計画どおり実施した(小)。 B:年1回実施した(中)。ほぼ計画どおり実施した(小)。 C:実施できなかった。	A

10 情報教育		
子どもの姿	評価基準	自己評価
基礎的な情報活用能力を身に付ける子ども	A: 必要な情報を正しく収集できる子どもが80%以上である。	A
	B: 60%以上～80%未満である。	
	C: 60%未満である。	
学校の改善策	* 「自己評価」は、胎内市立小・中学校全11校の自己評価の集計結果です。「学校の改善策」については、各学校のHPを参考にしてください。	

努力事項	具体的な方策	評価基準	自己評価
基礎的な情報活用能力を育てる学習活動の充実	情報モラル教育の全体計画を作成し、各学級で実施する。	A: 計画を作成し、全学級で実施した。	B
		B: 計画を作成し、80%以上の学級で実施した。	
		C: 計画の作成又は実践が十分できなかった。	
ICT機器や図書・新聞など資料の活用しやすい環境の整備	子どもが学習に活用できるように、コンピュータ、図書、新聞等の資料の状況について年2回以上点検、整備する。	A: 年2回以上点検、整備した。	A
		B: 年1回点検、整備した。	
		C: 点検、整備を実施できなかった。	

11 環境教育		
子どもの姿	評価基準	自己評価
環境問題について考え、環境を保全するために行動する子ども	A:「もったいない運動」に進んで取り組む子どもが80%以上である。	A
	B:60%以上～80%未満である。	
	C:60%未満である。	
学校の改善策	* 「自己評価」は、胎内市立小・中学校全11校の自己評価の集計結果です。「学校の改善策」については、各学校のHPを参考にしてください。	

努力事項	具体的な方策	評価基準	自己評価
ものを大切にしようとする態度を育てる、節水・節電などの「もったいない」運動の推進	節電、節水、省エネ、スクールエコ運動等の「もったいない」運動にかかわる取組を年2回以上実施する。	A:年2回以上実施した。 B:年1回実施した。 C:実施できなかった。	A
自然環境を保全する態度を育てる自然体験活動の充実	自然環境を保全するための自然体験活動を年2回以上実施する。	A:年2回以上実施した。 B:年1回実施した。 C:実施できなかった。	A

12 特別支援教育		
子どもの姿	評価基準	自己評価
一人一人の個性が生き、すくすくと伸びる子ども	A: 個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づく指導で望ましい方向に変容した子どもが80%以上である。	A
	B: 60%以上～80%未満である。	
	C: 60%未満である。	
学校の改善策	* 「自己評価」は、胎内市立小・中学校全11校の自己評価の集計結果です。「学校の改善策」については、各学校のHPを参考にしてください。	

努力事項	具体的な方策	評価基準	自己評価
学校生活や学習に困難を示す子どもの教育的ニーズの把握と校内支援体制の充実	学校生活や学習に困難を示す子どもの教育的ニーズの把握と校内支援体制の充実を目的とする校内特別支援コーディネーターを中核とした支援委員会を年3回以上実施する。	A: 支援委員会を年3回以上実施した。 B: 年2回実施した。 C: 年1回実施した。	A
一人一人の実態に応じた「個別の指導計画・個別の教育支援計画」の作成と指導方法の改善	特別支援教育を要する子どもの個別の指導計画及び個別の教育支援計画を保護者等と共に作成し、学期に1回改善を図る場を設定する。	A: 改善する場を学期に1回以上設定した。 B: 年2回設定した。 C: 年1回設定した。	A
特別支援教育の充実を図る研修の推進	特別支援教育の充実のために、校内研修を年2回以上実施する。	A: 校内研修を年2回以上実施した。 B: 年1回実施した。 C: 実施できなかった。	A

13 特別活動		
子どもの姿	評価基準	自己評価
協力し合い、よりよい学校生活を 目指す子ども	A: 友達と協力して活動している子どもが80%以上である。	A
	B: 60%以上～80%未満である。	
	C: 60%未満である。	
学校の改善策	* 「自己評価」は、胎内市立小・中学校全11校の自己評価の集計結果です。「学校の改善策」については、各学校のHPを参考にしてください。	

努力事項	具体的な方策	評価基準	自己評価
集団への所属感を高め、達成感を得る集団活動の充実	所属感が高まり、達成感を自覚できる集団活動(児童会、生徒会行事も含む)を年3回以上実施する。	A: 集団活動を年3回以上実施した。 B: 年2回実施した。 C: 年1回実施した。	A
子どもが取り組む自発的・自治的活動の推進	全ての学級で自分たちの学級生活のめあてとなる学級目標を立て、その実現のための活動を実践する。	A: 全学級で活動を実践した。 B: 80%以上の学級で活動を実践した。 C: 70%以上で実践した。	A

14 キャリア教育		
子どもの姿	評価基準	自己評価
夢や希望の実現に向けて努力する子ども	A:自分の将来の夢や希望をもっている子どもは80%以上である。	A
	B:60%以上～80%未満である。	
	C:60%未満である。	
学校の改善策	* 「自己評価」は、胎内市立小・中学校全11校の自己評価の集計結果です。「学校の改善策」については、各学校のHPを参考にしてください。	

努力事項	具体的な方策	評価基準	自己評価
自分の生き方や将来について考えるキャリア教育の推進(小学校)	望ましい勤労観を育てる機会や場(施設見学や職場見学、先輩の話を聞く会など)を年2回以上設定し、実施する。	A:年2回以上実施した。 B:年1回実施した。 C:実施できなかった。	A
学校と地域が連携した職場体験学習の充実と系統的なキャリア教育の推進(中学校)	「校内キャリア教育推進委員会」等を設置し、学校と地域が連携した職場体験学習を実施するとともに、その運営改善を図るために生徒・事業所・保護者(地域)の三者からの評価を実施する。	A:生徒・事業所・保護者(地域)の三者からの評価を実施した。 B:生徒・事業所・保護者(地域)のうち二者からの評価を実施した。 C:生徒・事業所・保護者(地域)のうち一者からの評価を実施した。	A
キャリア教育の充実を目指す研修の推進	キャリア教育全体計画に基づく指導計画の作成、改善を図る校内研修を実施する。	A:校内研修を年2回以上実施した。 B:年1回実施した。 C:実施できなかった。	A